

いわき三和町の担い農家を核とした集落営農への取り組み

いわき農林事務所農業普及部
地域農業振興推進G課長

金成善一



いわき市三和町合戸地区

1. 地域の概況

合戸地区は、市の北西部で国道49号線沿いの標高200m～250mの山間地に位置した農村地域で、地区の農家は、ほとんどが稲作主体の第2種兼業農家です。1戸当たりの水田面積も平均50aと小規模です。

2. 水田の約90%を担い手農家に集積、品目横断的経営安定対策等へ加入しました。

平成17年度から経営体育成基盤整備事業による圃場整備が始まり、関係機関の支援を得ながら、農地の利用集積など集落営農に向けた話し合いが行われ、平成18年1月には合戸地区営農改善組合が設立されました。

改善組合による農地の集積とともに水稲と大豆を基幹とした取り組みが進められ、全面積作付が可能となり、今年は約90%の水田が担い手農家に集積され規模拡大が進んできました。

担い手農家は、いわき市地域担い手育成総合支援協議会の支援を受けながら、今年から始まった「品目横断的経営安定対策」や「担い手経営革新促進事業」に加入申請するなど各種支援措置を活用し経営の安定に取り組んでいます。

①大豆栽培への取り組み

農地の集積とともに転作として大豆を新たに導入し、去年は4.6ha、今年は8.5ha

と団地化して取り組んでいます。去年は、初めての作付で機械作業上の課題がありましたが、隣接の集落営農組織と機械の利用調整など連携して取り組み、市内で最も高い収量を得るなどの成果を上げました。

また、今年は農林事務所や担い手協議会主催の各種技術研修会や先進地調査に積極的に参加し、湿害対策の小畝立て播種の導入を始め栽培方法に改善を加えながら、収量・品質向上を目指して取り組み、昨年以上の成果を上げています。

②水稲直播栽培への取り組み

経営規模が拡大する中、今年から水稲の省力化に向けて直播栽培(1ha)に取り組み、結果も良好でした。

③今後の取り組み課題

稲作の一層の省力化を目指し、直播栽培の拡大に向けた検討を進めています。

また、水稲と大豆による所得確保に努めながら、農業所得の向上に向けて、園芸品目の導入や法人化等に取り組んでいます。



大豆 小畝立て播種自前の土寄せ板を培土板に装着、ロータリの爪配列など独自に工夫



地域水田農業活性化緊急対策

従来の産地づくり交付金（毎年1,477億円）に加えて、19年度補正予算で、500億円を確保しました。

この予算は、

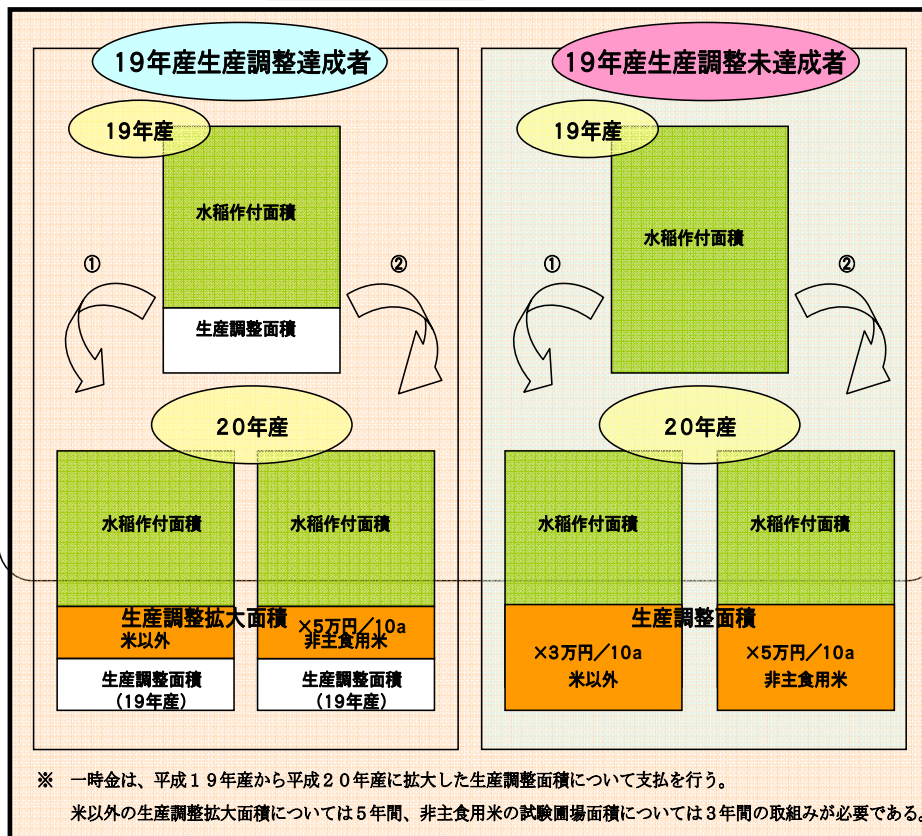
- ① 20年産以降、麦・大豆・飼料作物等の生産調整を拡大する方（5年契約）に「一時金」として交付されます。

・19年産の生産調整を達成していた方は、5万円/10a
 ・19年産の生産調整を達成していなかった方は、3万円/10a

- ② また、20年産以降、非主食用米（飼料米・バイオ米等）の低コスト生産技術の確立試験に取り組む方（3年契約）にも「一時金」として、

・5万円/10a

が交付されます。



東北農政局 福島農政事務所

□計画課 〒960-8207 福島市浜田町1-9

TEL 024-534-4144 Fax 024-535-0986